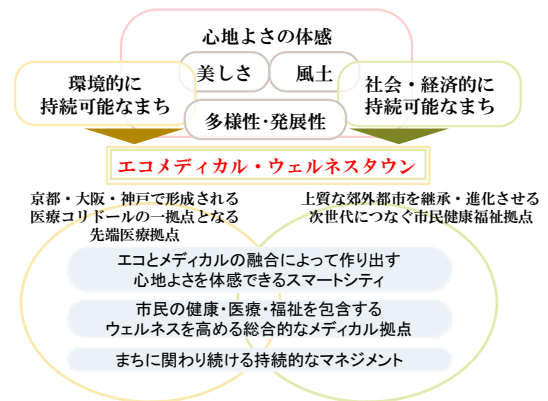


1. はじめに

環境未来型都市は、低炭素社会型の持続可能な都市システムを具体化するものである。一方で、現行の少子高齢社会を背景に、健康に留意した安心で安全なまちづくりの議論が重要となっている。本研究では、環境未来都市の構成に「健康まちづくり」の視点を導入するためのソーシャルデザインを検討する。そのため、医工学連携の社会的サービスから、まちづくり拠点としての組織構築の具体例を紹介する。これより、健康サービスによる知恵の産業化と地域振興から、生活質を向上させる持続可能な社会計画論を示すとともに、健康まちづくりのためのソーシャルデザインの基本理念を整理する。



図—1 エコメディカルシティの基本的構成¹⁾

2. 健康まちづくりの基本理念

本研究では、低炭素社会における都市システムとして、健康づくりの基本的な計画理念を形成することを目的とする。すなわち、持続可能な都市システムの理念的な側面を明確にする。このとき、都市市民の低炭素社会としての生活様式と都市システム基盤の有機構成を根源的な問題と考える。そのため、社会システムとしての都市をソーシャルデザインの視点から検討する必要がある。

ここで健康まちづくりの視点から検討された例として、「エコメディカルシティ」（吹田操車場跡地）の計画理念を紹介する¹⁾。この計画では、「健康まちづくり」に対応するキーワードとして、都市の健康・医療・福祉を包含した市民生活の程度である「ウェルネス」を提案している。したがって「ウェルネス」の向上を基本的目的としている。この基本理念は、図—2のように整理されている¹⁾。すなわち、基本理念として、環境モデルを実践するスマートな地区としての「エコ」と、京都・大阪・神戸で形成される医療コリドールの一部を占める先端医療拠点としての「メディカル」と、上質な郊外都市を継承・進化させ次世代へと繋ぐ市民の健康福祉拠点としての「ウェルネス」を融合させたまちを考えている。

このとき、現実の吹田市および吹田操車場跡地の地理的環境に配慮したエコメディカルシティを提案している。

すなわち、エコメディカル・ウェルネスタウンは、次の3つの性格を有するとされている¹⁾。

① エコとメディカルの融合によって作り出す心地よさを体感できるスマートシティ

この地区で過ごすことが心地よさの体感につながり、それが、新たな機能の持続的な提案、発展につながるスマートな空間となる。

② 市民の健康・医療・福祉を包含するウェルネスを高める総合的なメディカル拠点

市民のライフスタイルを総合的にサポートすることでウェルネスを高めるため、従来の個々の健康、医療、福祉を包含するコーディネート機能により、新しいメディカル拠点の在り方を実現する。

③ まちに関わり続ける持続的なマネジメント

持続可能性を有しながら、多様性を持つこの地区の機能群を融合させ、時代の変化に応じて発展させていくために持続的なマネジメントを導入する。エコとメディカルをつなぐ第3の機能を配置し、両者の交流によって持続可能性の高いマネジメントを実践する。

3. 健康まちづくりの理念形成

前章では、現実的プロジェクトから健康まちづくりの基本構成を整理した。ここでは、健康まちづくりの基本理念の形成に関して、マンダラの構成論を利用する。密教のマンダラは、瑜伽の行を通じて、行者の心象に浮かぶ聖なる仏の世界であり、宇宙の構成を示すものである。この基本構造の要素となる「五智」を簡単に整理する。

- ① 法界体性智（空）：大日如来（法身）の普遍性・絶対性、絶対真理の世界の実体、全智の能力、五智の総徳。
- ② 大円鏡智（地）：統一的総合的な絶対智が発動され、鏡がすべての映像を正確に映し出すように、絶対智にすべてのものが映し出される。
- ③ 平等性智（水）：一切のものは千差万別であるが、その差別の底にある平等を知る智慧。理性の総合的な方向を示す。
- ④ 妙観察智（火）：「差別照了」を観察する智。全体の中の部分を観察すること妙なること。
- ⑤ 成所作智（風）：ものを「滋長する」智慧。智慧の実践的能力。人間の肉体と経験を通じて発動される智慧。

これらの基本理念を表一に整理している。これらの教義から空間的に配置されることで、マンダラの基本構造が形成される。

表一 1 マンダラの五智に関する整理

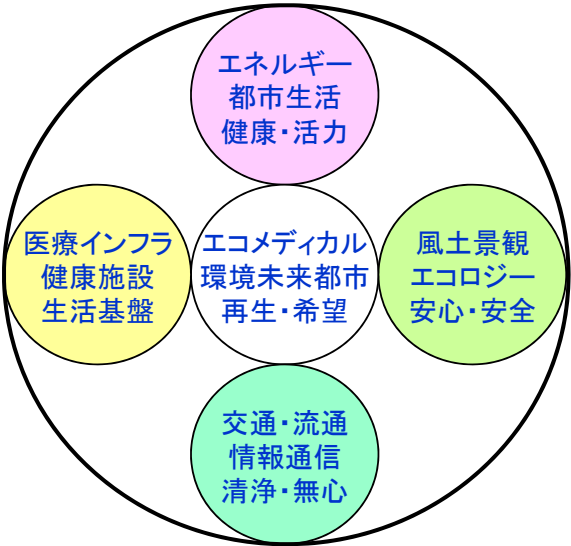
	如来部（金剛界）		如来部（胎藏界）
	五 智	自性輪身	自性輪身
中 尊	法界体性智	大日如来	大日如来
東 尊	大円鏡智	阿閼如来	宝幢如来
南 尊	平等智	宝生如来	開敷華王如来
西 尊	妙観察智	無量寿如来	無量寿如来
北 尊	成所作智	不空成就如来	天鼓雷音如来

上記の基本理念に基づいて、健康まちづくりのソーシャルデザインに関する基本理念をマンダラの形式に整理したものが図一2である。

すなわち、本図においては、①医療・都市インフラ、（地）②交通・流通（水）、③エネルギー・健康、④風土・環境（風）のソーシャルデザインに基づいて、⑤エコメディカルシティ（空）が形成される思想である。

4. おわりに

本研究では、健康まちづくりのソーシャルデザインに関して、「エコメディカルシティ」の具体的事例を示すとともに、密教的な思想形成を意図して、マンダラを用いた基本的計画理念の整理を行った。



図一2 健康まちづくりのための基本理念

しかしながら、現時点では多数の現実的課題が残されており、最後にこれらを整理しておく。

- ① エコメディカルシティでは、計画目標の妥当性と公共性の思想が必要である。特に低炭素化と経済合理性の適切な融合形態の検討が極めて重要である。
- ② 医療機関の先端機能・医療機能では不断のエネルギー利用と緊急時の危機管理が重要である。この点エネルギー効率化、省エネと相違する目標を持つ。
- ③ 健康・医療関係施設への来訪者と地域住民は、都市に求める利便性・快適性が相違する。高度な医療と健康サービスに基づく安心・安全社会と、経済活動・にぎわいの創生を協調的に検討する必要がある。
- ④ 都市交通システムでは、バリアフリー、シームレスに配慮する。運輸交通のスマート化は、健康的都市活動と地域回遊性の向上に寄与する。

エコメディカルシティの自律性では、高度医療・環境技術の理解と、市民の合意形成が必要である。市民意識を包含した自律的都市では、一般市民の潜在意識の理解と共感的活動が重要であると思われる。

最後に、本研究の遂行にあたっては、関西大学社会連携部「吹田エコメディカルシティ研究会」の議論が大いに参考となった。ここに感謝の意を表する次第です。

参考文献

1) 関西大学：エコメディカルシティの中核となる吹田操車場跡地コア街区の果たすべき機能の検討研究報告書，2012.